

日時：令和8年3月11（水）14:00～15:30

場所：国土交通省6階局議室

【イノベーション概念・段階の整理】

- 委員の専門分野が多様であったことから幅広い観点の議論が行われたが、抽象的な概念であるイノベーションに対して都市政策との関係が整理され、とりまとめられたことは意義が大きい。
- 今後の検討に向けては、イノベーションの概念が多義的であるため想定するイノベーションの類型を整理すること、また省庁間連携やハード・ソフト施策の連携を進めることが重要。
- イノベーションには「0から1」「1から10」「10から100」といった成長段階があり、それぞれの段階に応じた支援が可能な環境を整えることが重要。

【都市政策の役割】

- 都市政策は、都市構造や立地環境といった本来は外部条件とも言える要素についても、都市計画や都市開発を通じて政策的に形成することが可能であり、外生変数を一定程度内生変数として扱いながら議論できる点に特徴がある。こうした観点から、都市空間の整備を通じてイノベーション創発を支える都市環境を形成していくことが重要。
- 今回追加されたページでエリア設定、目標設定から施設整備、マネジメントまで一体で取り組むことが示されていることは重要。今後は、どのような施設や機能、マネジメントが必要なのか、どのようにエリア設定や目標設定を行うか、具体的な方法論や評価のあり方をさらに検討していくことが望ましい。

【大学・研究機関と地域企業の連携】

- 大学や公的研究機関と産業界の連携という観点からも、今回の取りまとめは実現可能性のある方向性が示されている。地方企業にとって大学研究室へのアクセスは必ずしも容易ではないため、長岡市のように大学と地場企業をつなぐ仕組みがあることで、研究成果の社会実装につながる可能性が高まるのではないかと考える。
- 大学は人材が集まる場であり、社会と大学の相互作用の中でイノベーションを生み出す人材を育成することが重要。
- 大学そのものを立地させるだけでなく、例えば大学教員が街中に居住し地域社会との接点を持つといったアプローチも考えられる。

【ハードとソフトの組合せ】

- ハードを整備すれば自動的にイノベーションが生まれるわけではなく、イノベーションを生み出すためにはソフト面の取組も重要。
- スマートシティの取組はハード面の整備が中心となる傾向があるが、イノベーション創発の観点ではソフト面

の取組との組み合わせが重要であり、両者が相互に補完する形で都市の新しい姿が生まれることを期待する。

【多様な主体の参画】

- イノベーションは産業面だけでなく、都市に住む住民の生活の質にも関係するものであり、高齢者を含め多様な人々が参画できる仕組み作りも重要。
- 立地適正化の政策はこれまでコンパクト・プラス・ネットワーク形成を目指してきたが、若者を対象とした施設の誘導も期待される。イノベーション創発の観点では若い世代が重要な担い手となるため、若者が街中に来る理由づけとなる施設や環境の整備が重要。

【空間構成・場づくり】

- 都市のアメニティや都市で働く人々の環境を、イノベーション創発の重要な要素として位置付けた点は意義が大きい。
- 施設の配置だけでなく、偶発的な交流を生む中間領域など、多様な交流を促す空間デザインが重要。また、既存空間を柔軟に活用することも含め、イノベーションを育てる場づくりのガイダンスとして発展させることが望ましい。

【分野横断・省庁横断】

- 今回の取りまとめでは、都市政策、イノベーション政策、大学政策など異なる分野の概念が融合している点が特徴的である。実際の地域では分野横断的な取組が行われているが、これをさらに促進するためには自治体内部の部局横断的な連携や、大学・企業との柔軟な協働を促す環境づくりが重要。
- 今後重要なのは、今回の取りまとめをどのように実行に移していくかである。誰が、いつまでに、どのように実施するのかといったロードマップを検討することも重要。他省庁で先行して進められている施策との連携を図り、既存の枠組みを活用しながら効率的に進めていくことが重要。

【都市間連携・横展開】

- イノベーション創発において「場所」に着目した検討が行われたことは意義深い。まだ事例が多くない分野であるため、今後は政策的・学術的な知見を積み重ねていくが必要。
- 都市ごとに目指すイノベーションの形は異なるため、都市規模や地域特性に応じた取組とすることが重要。さらに、都市ごとの取組を横展開し、全国的に波及させていく視点も重要であり、地域間連携のうえで事例を増やしていけると良い。